

# 北小だより

9月臨時号

H30.9.28(金)

発行：校長 廣瀬 敏夫

## 全国学力・学習状況調査 の結果について

カラーでご覧になりたい方は  
右のQRコードから中道北小  
ホームページへ <http://www.nakamichikita-e.kofu-vmn.ed.jp/>



本年度の全国学力・学習状況調査は、全国の小学校6年生と中学校3年生を対象に、4月17日(火)に実施され、本校でも6年生が参加しました。

この調査は、本校児童の学力や学習状況を把握・分析し、各教科における課題や生活状況の実態などを明らかにすることにより、今後の指導内容や指導方法の改善、生活面の改善などに役立てることを目的としています。

調査内容は、大きく教科に関する問題(国語・算数、平成30年度は理科も実施)と生活習慣や学習環境等に関する質問紙調査に分かれています。さらに国語と算数については、A問題(主として「知識」に関する問題)とB問題(主として「活用」に関する問題)に分かれています。

8月上旬に文部科学省から結果が送られてきました。本校では、夏休み中の校内研究や運動会等の取組と並行して調査結果の分析を行ってきました。この度、各教科と質問紙調査の分析結果がまとまりましたので、その概要をお知らせいたします。

学校では、「各教科における改善点」をもとに取組を進めています。また、各ご家庭でも後述する「ご家庭へのお願い」をお読みいただき、ご指導・ご協力をよろしくお願いいたします。

### 本校の状況(全国との比較)

(※文部科学省では、全国平均正答率の±5ポイントの範囲内にある場合は、全国平均と「ほぼ同等で、差はないものと判断できる」としています。)

本校の国語A・B、算数A・B、理科の平均正答率は、算数Aが全国平均よりも「やや低い」ものの、他は「ほぼ同等」といえる結果でした。また、国語及び理科では9割以上の問題で無解答者の割合が全国平均よりも低い状況でしたが、算数においては逆に半数の問題において無解答者の割合が全国平均よりも大きくなっていました。

全国と同様に、「知識に関するA問題よりも、活用に関するB問題の方が正答率が低い」「選択式の問題よりも記述式の問題の方が正答率が低い」という傾向があります。しかし、国語Bの記述式問題の正答率は全国平均よりも10ポイント程度高くなっています。

さらに、質問紙調査については、「家庭学習への取組」「地域行事への参加」が積極的に行われている反面、「あきらめずに問題に取り組む」「規則正しい生活」「新聞を読む」などについては課題があります。

(参考)教科別の平均正答率：全国と本県比較

	国語 A	国語 B	算数 A	算数 B	理科
全国平均正答率	70.7	54.7	63.5	51.5	60.3
本県平均正答率	71	54	62	50	60

都道府県平均正答率の小数点以下は明らかにされていません。

### 各教科の結果の概要

#### 国語

国語Aについては県及び全国とは同等の結果でした。領域別に見ると、「話すこと・聞くこと」「言語文化や特質」はほぼ同等、「書くこと」が高く「読むこと」が低い結果でした。全体として、問題文の読解力に課題があります。

国語 B もほぼ同等の結果でした。「書くこと」「読むこと」の領域は県及び全国よりも高い結果となりました。

#### A 主として「知識」に関する問題

- 事例を挙げながら筋道を立てて話すことはできている。
- 慣用句の意味を理解し日常生活で使える。
- △登場人物の心情や情景描写を捉えることが苦手である。「草の穂波」「一面の火の海」など言葉からイメージできない。
- △音読み、訓読みが正確に定着していない。
- △主語と述語の関係などに注意して文を正しく書くことができない。
- △敬語について誰に対して使うのかを理解できていない。



#### B 主として「活用」に関する問題

- 話し合い活動への参加や役割について理解している。
- 自分の考えを明らかにしながら読み、それを記述する問題の正答率は、県及び全国を大きく上回っている。
- △目的や意図に応じて文章全体の構成を考え、条件に合わせた文を書くことが苦手である。
- △話し手の意図を捉えながら聞き、自分の考えと比べて考えることが苦手である。
- △目的に応じて、複数の本や文章などを読み進める力が弱い。

### 算 数

算数 A 全体では、県及び全国よりも正答率が低くなっていました。これを領域別に見ると、「数と計算」はわずかに上回っているもののほぼ同等であり、図形や数量関係（関数など）には課題があります。

算数 B 全体では、県及び全国とほぼ同等（わずかに上回っている）であり、各領域別に見ても同等といえます。特に図形については明らかに上回っていました。

#### A 主として「知識」に関する問題

- 数の計算（小数を含む）や数の大小や比べ方を理解している。
- △問題文を読み取りそれを式に表すことができていない。
- △計算を行った結果が何を意味しているかが分かっていない。
- △分度器の使い方が十分理解できていない。
- △空間図形の位置関係を把握するところに弱点がある。
- △百分率（%）の求め方が理解できていない。
- △グラフから変化の特徴が読み取れない



#### B 主として「活用」に関する問題

- 図形の性質をもとに集まった角の和が 360 度であることを記述する問題は、県及び全国よりも明らかに高かった。
- グラフから読み取れることを判断して回答群から選択する問題については、県及び全国よりも高い結果となっていた。
- △文章とグラフを結びつけて総数や変化を記述する問題については、県及び全国も正答率は低かったが、本校の場合はほとんどできていなかった。

### 理 科

理科の正答率については、県及び全国とほぼ同等でした。しかし、領域別に見ると物質の分野がやや苦手であるように感じられます。

- 自然の事象についての関心や意欲が見られる。
- 人体についての特徴について理解できている。
- 河川のはたらきについては十分理解できている。
- △河川のはたらきであっても、実験結果をもとに考察して記述する問題は、県及び全国とほぼ同等であるものの、正答率が非常に低くなっている。
- △食塩を水に溶かしたときの変化の様子を記述することができていない。

## 各教科における主な改善点及び授業における具体的取組

これまでも進めている「甲府スタイル」をもとにした授業改善を図る。

### 国語

- \* お世話になった人にお手紙を書くなど、敬語を日常的に使う工夫をしていく。
- \* 長文を読み進める力をつけ、条件に合った文章を前の文と関連づけながらまとめられるようにする。
- \* 話し手・書き手の意図や立場を理解しながら、聞いたり読んだりする機会を増やしていく。

### 算数

- \* 問題を読みながらグラフや表などに必要なことを書き込む、線を引く、問題文からわかることを自分なりにまとめるなどを日々の授業のなかで行う。
- \* 弱点について、宿題、家庭学習などで、繰り返し復習をする。

### 理科

- \* 実験結果を考察し、分かったことやまとめを記述する機会を、ワークシートなどを工夫して増やしていく。
- \* 身近な自然環境を積極的に活用した授業を行うとともに、物質分野について実験などを多く取り入れながら性質を理解させるように進めていく。
- \* 既習事項を想起する場面や、実験・計測機器などを継続して使用する場を意図的に設けることで、問題の理解や考察を進める力を高める。
- \* 実験・計測機器の使い方などについても、理解の妨げとならないように継続して使用する場面を設ける。

## 質問紙調査から見る本校児童の主な特徴

質問紙調査は、学校や家庭における勉強や生活の様子について調査したものです。全部で62項目（前年度は92項目）あり、本校児童の生活習慣や家庭学習、家庭での過ごし方などの主な特徴は次のとおりです。（なお、文中の「肯定的」というのは、問いに対して「あてはまる」「どちらかといえばあてはまる」と答えている場合をいいます。）

### 生活環境について

- \* 「朝食を毎日食べている」としている児童が100%で、ご家庭での毎日の生活基盤がきちんとされていることがうかがわれます。
- \* 9割を超える児童の起床時間はほぼ一定であるが、就寝時間がほぼ決まっている児童は7割にとどまり、全国平均よりも10ポイント下回っている。

### 自分や友だち、学級について

- \* 「自分にはよいところがある」の問いに肯定的に答えた児童が9割を超えており、県及び全国平均を上回っている。
- \* 「将来の夢や目標を持っている」に「あてはまる」と答えた児童の割合は、県及び全国を上回っている。

### 学習について

- \* 「家で、自分で計画を立てて勉強している」という問いに対して、肯定的に答えている児童は県及び全国とほぼ同じであるが、「あてはまる」と答えた児童は下回っている。
- \* 「家で、学校の宿題をしていますか」の問いに対しては、県及び全国と同じでほぼ100%であるが、「家で、学校の授業の予習・復習をしている」と答えた児童は、県及び全国を大きく上回っている。また、その自学自習についてはほとんどの児童が教科書を使っていると答えている。

- \* 算数の授業は大切だと思っている児童は多いが、新しい問題に出会ったときに解いてみたいと思ったり、解き方が分からないときにも諦めずにいろいろな方法を考えたりする割合が低くなっている。
- \* 理科の勉強が好きだったり、大切だと思ったりしている児童の割合は、県及び全国と同程度であるが、理科や科学技術に関係する職業に将来就きたいと思っている児童の割合は約半数程度である。
- \* 「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていると思いますか」という問いに対して、肯定的に答えている児童の割合は県及び全国よりも10ポイント程度高くなっている。
- \* 授業以外の平日の学習時間が1時間以上の割合が、県及び全国を大きく下回っており、約半数の児童の学習時間は30分から1時間未満であった。
- \* 授業以外の平日の読書時間は県及び全国とほぼ同じであった。
- \* 放課後や週末の過ごし方については、スポーツを除く習いごとをしている割合が高く、週末ではスポーツの割合も高くなっている。学習塾など学校や家以外での学習をしている割合は低くなっている。

### 地域や社会への関心について

- \* 地域の行事に参加している割合は、県及び全国よりも高く、地域や社会で起こっている問題や出来事への関心も高くなっている。さらに、地域や社会をよくするために何をすべきかを考えている割合も高い。
- \* 地域の大人に勉強やスポーツを教えてもらったり、遊んだりすることがあると答えた割合が県及び全国よりも高くなっている。
- \* 「新聞を読んでいますか」という問いに肯定的に答えた児童の割合は、県及び全国の半分であった。全国的に見ても割合が大変低くなっている。

### 質問紙調査からの改善点

- \* 学習時間を増やす工夫を行う。
  - 家庭学習の手引きをさらに充実させ、宿題からすすんで行う自主学習への転換を図るように働きかける。
  - 家族で協力して、ノーテレビデー・ノーゲームデーなどの取組を進める。
- \* 地域とのつながりをさらに深めていく。
  - 行事への参加をいっそうすすめていく
  - スポーツ少年団など地域の方々に支えられた活動が行われている。学校でも、ゲストティーチャーを迎えたり地域との交流が図れる授業を工夫していく。
- \* 話し合い活動など、考えたり発表しあったりする時間を取り入れた授業をさらに進めていく。授業における新聞などの活用を積極的に行う。



### ご家庭へのお願い

- \* 意欲を持って学習に取り組んでいる様子がうかがえます。しかし、確実に身につけてほしい基礎的・基本的なことが定着してない現状があります。これは学習時間が少ないことも理由の一つと考えられます。「家庭学習の手引き」等を活用し、自主学習への取組にご協力をお願いいたします。
- \* 学力と生活習慣は密接に関係しています。それが大変よくできていると思います。今後も、早寝・早起き・朝ご飯の習慣を親子で実践していただけますようお願いいたします。
- \* 読書と学力の関係はよくいわれます。朝読書や読み聞かせを学校で継続していきますが、ご家庭でも読書のひとときをつくってみてください。また、新聞を読む取組を県でも推進しています。興味が持てるような記事をもとに話をする機会もつくってみてください。
- \* 地域の活動にも積極的に参加している様子がよく分かります。今後とも地域の行事にお子さんと参加していただき、日常的に関われますようご協力をお願いいたします。

